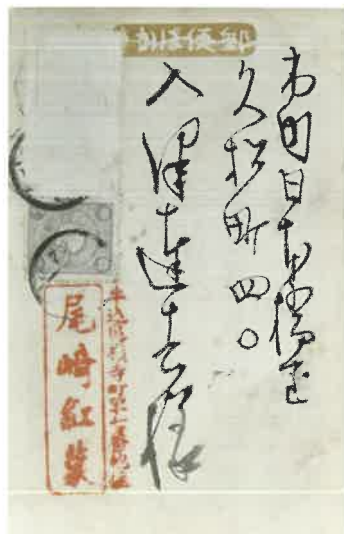


森林太郎(鷗外)差出書簡



尾崎紅葉差出書簡



『当用日記』明治39(1906)・41・42・43・45年

- 〔指定年月日〕 令和二年二月一〇日
- 〔種 別〕 令和四年二月二八日追加指定
指定有形文化財(歴史資料)
- 〔名 称〕 入澤達吉關係資料
- 〔点 数〕 八九四四点
- 〔所有者等〕 個人
- 〔所在地等〕 大宮一―二〇―八(郷土博物館)

指定有形文化財（歴史資料）

入澤達吉関係資料

東京帝国大学医学部教授にして大正天皇の侍医頭も務めた医師・入澤達吉（元治二（一八六五）年、昭和二三（一九三八年）に関する総数約一万点に及ぶ資料の内、日記類（四十七点）を、「入澤達吉関係資料（日記類）」として令和元年度に杉並区の有形文化財に指定し、令和三年度に書簡類（八八九七点）を追加指定した。

日記類は一部期間を欠くものの、達吉の生涯のおおよそを把握できる自己記録であり、書簡類も日記類同様に達吉の生涯にわたる資料で、内容は多岐にわたるが、当時の医学界などの潮流を達吉を中心とした視点で窺うことができる資料である。

医師・入澤達吉の生涯を網羅するこれら資料は、達吉個人の活動や業績を詳しく明らかにしようと共に、達吉の交友関係や思想などを窺い知ることが出来る貴重な資料である。同時に、医師のみならず華族や国内外の政治家・文化人など、多方面の人物と交流を持った達吉に宛てられた書簡の記述は、同時代の知識人や文化人の生活様式や行動様式、思考方法を窺い知ることができる資料でもある。すなわち、皇室史や政

治・外交史、文化史、医学史などの既知の同時代資料と読み合わせることで、新たな歴史的事実を明らかにする可能性を持つており、今後の研究に大いに資する貴重な資料である。なお、追加指定に伴い指定名称を「入澤達吉関係資料（日記類）」から「入澤達吉関係資料」に改めた。

【文化財旧所在地】旧入澤邸

